

「2022年度タイ・チューラーロンコーン大学スプリングスクール派遣参加報告書」

京都大学農学部1年 田中麦人

自分はもともと、異文化を知り知見を広めること、一緒に行く人も含め新たな交友関係を作ること、タイへの興味といった主には3つの目的からこのプログラムに参加しました。学習成果としては、これらは自分が行く前に期待していた以上に満たされたうえ、海外での学習への興味が湧いたと感じています。いくつかの面から、このプログラムから得たことについて述べました。

1つ目は知見を広めるということについてです。行く以前の希望としては、特にタイとの比較を通して自分が無意識に持っている文化的背景を知りたいと考えていました。実際に、グループの発表テーマが食における習慣の比較であったこともあり、グループのメンバーや現地を案内してくれた学生から文化の情報を数多く得ることができました。これらの情報は、実際に関わって話さなければ現地の人々がどう過ごしているのか正しい情報は得られないという強い実感をもたらしました。またチューラーロンコーン大学について詳しく知ることで、日本の大学をより客観的に捉える視点を得ました。こうした感覚は、他の国々がどうなっているのかについても知りたいという意欲のもとにつながっています。

2つ目は、自分の中でかなり難しいものと捉えていた留学がより現実的なものとして捉えられるようになったことです。このプログラムを選んだ理由の一つには、使用言語で日本語が多いということもありました。実際、案内して下さった学生は日本語が堪能でとてもコミュニケーションが取りやすく、また担当の先生に日本語が通じるという点ではかなりの安心感がありました。その一方タイ語や一部のタイ文化の授業、アユタヤの案内などは主に英語で行われ、想像していたより海外の英語による授業も理解できることがわかりました。また、心配していた町中でのコミュニケーションについてもある程度英語が通じればそこまで大きな障害はないことがわかり、海外での長期滞在への抵抗感が小さくなりました。こうした言語の面で、留学へのハードルがこのプログラムに参加する前よりも低く感じられるようになった気がします。また、参加者に留学経験者、留学予定者がいたことも自分に影響を与えました。普通に話していた人の中にモンリオールに5ヶ月滞在していた人や9ヶ月のフランス留学予定が決まっている人がおり、学習のための選択肢としての留学が現実味を持つようになりました。

プログラム内容についても、タイ語を学ぶ機会を与えられたお陰でちょっとしたやりとりがマーケットなどでできるようになり、言語を学び意思伝達に使えるようになる楽しさを感じました。また、文化について講義やダンスのレッスンなどで学び、ただ現地のお寺を見て回るだけでなく情報を知った上で歴史的建造物にふれるという面白さを学びました。学習や教養を身につける面白さを、このプログラムで改めて実感しました。

自分の進路には理系だということもあり大きな影響はありませんでしたが、より柔軟な視点を得られたという点で今後学ぶ場所を選ぶ際に海外も選択肢に入るようになったのは大きな進歩だと考えています。

以上のような学習成果がこのプログラムを通して得られました。このような成果を今後の学習に生かそうと考えています。